

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 愛の郷		
所在地	下関市一の宮東町3丁目 380-1		
電話番号	083-263-6662	事業所番号	3570101687
法人名	有限会社 マインド		

訪問調査日	平成 21 年 7 月 15 日	評価確定日	平成 21 年 9 月 15 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	20 人	常勤 13 人 非常勤 7 人 (常勤換算 16.3 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	22,500 円		
	内訳	日常生活費 750円/1日		

### (4) 利用者の概要 (6月25日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護 1	8	要介護 4	1
	要介護 2	0	要介護 5	0
	要介護 3	9	要支援 2	0
年齢	平均 76.8 歳	最低 65 歳	最高 85 歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 橋本クリニック、赤星外科、池江内科 歯科 大坪歯科
-------------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

職員は一人ひとりの利用者の状態に応じて、穏やかで安心な日々が送れるように支援されています。山口県宅老所・グループホーム連絡会、ブロック研修会に参加し、交流して情報交換をされたり、市内のグループホームとの勉強会や相互訪問、情報交換、相談などの交流を通じサービスの質の向上に努めると共に、職員のスキルアップに繋げておられます。

### (特徴的な取組等)

利用者や家族のその時々々の要望に応じて、理美容院の送迎支援、受診の付き添い支援、特別な外出(結婚式、生け花展など)の支援、投票の支援、ふるさと訪問支援、ショートステイなど多機能性を活かした柔軟な支援をされています。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

運営推進会議や職員会議で報告し、意見交換をして、理念の見直しや事故報告書等の様式や記録の改善に取り組みられています。残りの課題に対しては、検討や取り組みを始められるなど、前向きに考えておられます。

### (今回の自己評価の取組状況)

計画作成担当者を中心に職員の意見を取り入れ、管理者と一緒にまとめて記入されています。職員にはケアの振り返りのきっかけとなっています。

### (運営推進会議の取組状況)

2~3ヶ月毎の開催となっており、メンバーは利用者代表、家族会会長、周辺自治会長(5人)、副会長(2人)、民生委員(4人)、保護司、市議会議員、地域包括支援センター長、事業所関係者で外部評価の報告、緊急時の対応、介護保険の給付等についての報告、地域の情報や意見交換をされています。

### (家族との連携状況)

ホームだより(年6回発行)、写真、担当者のコメントの送付、家族会(年3回)での意見交換や家族参加行事(年6回)の敬老会、クリスマス会で、交流したり要望を聞いておられます。面会時には声かけをして生活状況などを伝え、緊急時には電話での連絡もされています。

### (地域との連携状況)

地域の盆おどりへの参加、散歩時の挨拶や会話、事業所の夏まつりには地域へチラシを配布され、子ども達の参加もあり、交流を深めておられます。また、近所の方が野菜などを持ち寄られたり、職員が利用者と一緒に近所の百円市の野菜を買いに行くなど、日常生活の中で地元の人々と交流することに努めておられます。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>地域密着型サービスとしての理念について、前回の評価後に職員と話し合い、今までの理念と共に、地域に根づいたサービスの提供という考えのもと、その人らしく地域の中で暮らし続けることを支えるサービスとしての理念をつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>玄関、事務室、共用空間などに掲示すると共に、会議やミーティング等で確認し、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域の盆踊り等に参加し、事業所の夏祭りには子供達の参加もあり、散歩時の挨拶や会話等で地域の中に溶け込みつつある。また、近所の方が野菜等を持ち寄ってくれたり、利用者と一緒に百円市の野菜を買いに行く等、日常生活の中で交流に努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員に意見を聞きながら、管理者と計画作成者がまとめ、介護の振り返りのきっかけとなっている。評価の意義と理解について話し合うことの必要性と活かすことについて検討している。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2～3ヶ月毎に開催し、メンバーは利用者代表、家族会会長、周辺地域自治会長(5人)、副会長(2人)、民生委員(4人)、保護司、市議会議員、地域包括支援センター長で、外部評価の報告、緊急時対応、介護保険の給付等についての報告や、地域の情報や意見交換をしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>健康づくり課、介護保険課、生活支援課、地域包括支援センターと連携を密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年6回発行のホームだより、写真、担当者のコメントを送付している。家族会(年3回)での意見交換や家族参加行事(年6回)の敬老会、クリスマス会で交流し要望を聞いている。面会時に声かけをして状況を伝えている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議に家族代表が参加し、家族会で意見を出せる仕組みを作っている。窓口及び担当者、外部機関は掲示しているが、第三者委員の選任、苦情処理の手続きは定められていない。	・苦情処理手続きの明確化 ・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	一人ひとりの状態や状況の変化や希望に対応出来る職員の体制となっている。急病や急な休みの時には、公休出勤や通常のシフトに入っていない管理者が対応するなど、柔軟に対応している。勤務表作成に関して職員の希望を取り入れて調整している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニット間の職員の異動はあるが、職員は日常的に交流しており、顔馴染みによるケアに努めている。離職があった場合は、日勤を1ヶ月、夜勤は4～6回の重複勤務でダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は勤務の一環として段階的に研修に参加し、研修受講後はミーティング時などに復命をしている。事業所は資格手当での支援もしている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、研修会、交流会に参加して研修、情報交換をしている。ブロック研修会にも参加、また、他のグループホームと勉強会、相互訪問、情報交換、相談などをして、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>病院の相談員と見学に来られたり、また、面接、事前調査などで馴染むように努めている。デイサービスからの利用者や家族の見学では、お茶などを飲んだりして馴染めるよう家族と相談しながら工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者に調理方法、編み物、戦争体験、昔の生活の経験、草花の名称などを教えてもらったり、感謝の言葉をお互いに掛け合うなど、和やかに暮らせるように支え合う関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者と一緒に会話することで情報収集したり、家族などに尋ねて、ミーティング時に共有すると共に、個人記録の特記欄に記入するなど、アセスメントを増やすよう努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ミーティングや毎月のカンファレンスで、利用者に関わる課題を職員間で話し合って介護計画を作成しているが、本人や家族などの気付きや意見を反映した、具体的な計画作成にはいたっていない。</p>	<p>・必要な関係者の意見やアイデアの反映の工夫</p>
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画作成している。</p>	<p>介護計画の遂行状況、効果などの評価はされていない。変化があれば必要に応じて、臨機応変な見直しはしている。</p>	<p>・記録様式の検討</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>理美容院の送迎、受診の付き添い、特別な外出(結婚式、生け花展など)、ショートステイ、投票、ふるさと訪問など柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医の他、利用者、家族の希望のかかりつけ医の受診が出来るよう、家族と協力し、通院の支援をすると共に、受診結果などの情報を伝えている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合の対応について、本人、家族、医師、看護師、職員、関係者で話し合い、方針の統一について早い段階から話し合っ、対応可能な施設に移って貰っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	職員は本人のプライバシーに関することを話さないことを共有し、日々の関わり方をリーダーが点検すると共に、プライバシーを損ねない対応に努め、記録類は見えない場所に保管している。新任者研修の中でプライバシーを損ねない対応について研修している。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝、食事、入浴時間、部屋食など一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、希望にそっての支援に努めている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝食、夕食は事業所で調理し、昼食は併設施設からの配食で盛り付けなどを行っている。好みを把握して、魚の嫌いな人は肉にするなどの配慮をしている。おやつは一緒に作るなど、一人ひとりが出来ることを見つけながら支援をすると共に、利用者の状態によって、薄く切ったり、きざみ、すりおろしなどの支援もしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日9:00から11:30まで入浴が可能で、入浴を嫌がる場合は時間をずらす、再度の声かけなどの工夫をしたり、シャワー浴、足浴、清拭など一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備、後片付け、畑作り、草抜き、洗濯物たたみ、掃除、貼り絵、塗り絵、折り紙、新聞読みな、その人のできることや楽しみごとを把握し、支援をするように努めている。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、朝夕の散歩、デパート、四季の花見(桜、コスモス、紅葉など)や自然公園、神社参りなど希望や身体状況に応じて、戸外に出かけられるよう支援している。	
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束の内容、弊害を認識している。スピーチロックなど、自覚しない身体拘束をしていないかを管理者、リーダーが点検している。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	事業所の立地条件や利用者の状態から施錠(外からは開けられる)をしているが、利用者の外出の傾向をつかんで、一緒に出かけたり、職員の見守り体制を工夫するなどの努力をしている。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故やヒヤリはつとに関する報告、記録を整理し保存して、事故が発生した場合は報告書を作成し、一人ひとりの状態に応じた再発防止対策を検討し、家族への説明を行っている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成、看護職員を中心にして対応する体制となっている。発作、意識不明などの対処方法や応急手当等の定期的な訓練は行なわれていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に避難訓練、消火器の使用訓練を実施(夜間想定は次回の予定)している。運営推進会議で協力体制を検討中である。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の目的、副作用、用法、用量について理解すると共に、誤薬のないように配薬時のチェック、服薬時の手渡し確認、症状の変化の確認に努めると共に、必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに応じた支援をしている。歯科医による口腔チェックや指導を受けている。義歯の消毒、歯ブラシの清潔保持、保管についての支援もしている。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を記録し、一人ひとりに応じたおおまかな把握をしている。昼食は外部業者に委託しているのでバランスなどの管理はされている。きざみ、とろみ、ミキサー食の支援をしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	食中毒、インフルエンザのマニュアルを作成し、インフルエンザの予防接種(利用者、職員)をしている。手洗い、うがいの励行、ペーパータオルの使用、手すりの消毒は実施されている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節感を取り入れた壁面の飾り付けやソファ、食卓などの居場所、調理をする音や匂いなどの生活感が感じられる共有空間で、ゆったりと過ごすことが出来るように工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、椅子、鏡台、時計、写真、パッチワーク(壁飾り)、テレビなど好みの物や使い慣れた物を持ち込まれていて、今までの生活スタイルを大切にして、居心地良く過ごせるような工夫がされている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 愛の郷
所在地	下関市一の宮東町3丁目380-1
電話番号	083-263-6660
開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

## 【サービスの特徴】

<p>1. 一人ひとりに合ったプランを立て、そのプランを実行するにはどのような方法でケアするかということ等を皆で話し合っている。</p> <p>1. 本人の喜ぶこと(望んでいること)、得意なことは何かを掴み、プランの中に組み入れている。</p> <p>1. 家族とも密に連絡を取り合い、本人が安心して過ごせるよう配慮している。</p> <p>1. 毎月の行事、季節の行事、家庭菜園、誕生会、ドライブ等と楽しい催しを企画している。</p> <p>1. 一人ひとりと触れ合う時間を多く持ち、孤立することがないように職員が中心となりコミュニケーションを図っている。</p>
---

## 【実施ユニットの概要】 (6月25日現在)

ユニットの名称	グループホーム愛の郷「のぞみ」					
ユニットの定員	9 名					
ユニットの利用者数	9 名		男性	名	女性	9 名
	要介護1	5		要介護4	1	
	要介護2	1		要介護5		
	要介護3	2		要支援2		
年齢構成	平均	78 歳	最低	66 歳	最高	86 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	
評価確定日	平成 年 月 日



## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		独自の理念を作りあげています
2 (2)	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		自主互援に必要なサービスの提供をしています 専門的なケアの充実が図れるよう研修等の受講
3	○運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		示しています
4	○運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		共に介護サービスを行い、熱意を持って取り組んでいます
5	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		地域の方と交じって、運営推進会議や家族会の開催
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。		散歩時に挨拶等による交流。野菜をいただく等も時々あります
7 (3)	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		地域の集りに参加したり、行事に地元の方の参加を呼びかけたり交流に努めている野菜配達の方から購入している
8	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		利用者や地域の方と本掛け紙作り、ゴミ拾い等を行っています
			毎年夏祭りを開催し、地域の方と交流を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	<p>○評価の意義の理解と活用            運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員に自己評価をしてもらい、自分達の介護を振り返るきっかけにしている	
10 (5)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	地域の民生委員の方々と話し合いの場を設けてそこで意見を十分に活用してサービスに活かしている	
11 (6)	<p>○市町との連携            事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	包括の職員に推進会議に参加してもらい、意見の交換や指導もいただいている	
12	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用            管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	権利擁護は利用されては利用者のため	
13	<p>○虐待の防止の徹底            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	注意を払い防止に努めている	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	<p>○契約に関する説明と納得            契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	市町と行って十分に話し合いの場を設けている	
15	<p>○運営に関する利用者意見の反映            利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	家族会での意見の交換や日々個別に苦情不安等が解消されるように努めている	
16 (7)	<p>○家族等への報告            事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	そのつど報告はしている	定期的に「施設便り」等の発行を考えている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p> <p>情報開示の要求が適切に行っています</p>		
18 (8)	<p>○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p> <p>面会時や電話をきっかけに意見を聞いている</p>		
19	<p>○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p> <p>主任会議やカンファレンスにて毎月職員の見解交換を行っています</p>		
20 (9)	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p> <p>努めています</p>		
21 (10)	<p>○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p> <p>ユニット間での職員の交流、利用者の交流を、少しの職員を増やし、異動や離職にそなえている</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修への参加も日々の仕事の中での指導にもなっています</p>		
23	<p>○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p> <p>年齢、性別、経験等、様々な人材、各々の強みを生かせるよう指導しています</p>		
24 (12)	<p>○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>グループ間での研修等を通じて交流を、月リ情報交換や面会も行っています</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	〇職員へのストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	個別に相談しやすい環境を作ります		なるべく希望休を受け入れて いる
26	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	現場になるべく居て、勤務状況を把握するようにしている。		
27	〇職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	職員の話を個別に、なるべく現場に居る事で理解できる様努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入所に至るまでの環境の把握や、本人の希望等をしっかり伺っています		2 プランに反映して...
29	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	上記同様受けとめる努力をしています		〃
30	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族を交えてサービス内容の確認をしています		
31 (13)	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族の方にも協力をいただき、面会の機会をなるべく多く行なっていただくようお願いしています		サポート(特にご家族も若干はいる)もって呼びかけをして理解していただく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一人一人の個性を尊重し理解しあえる関係作りに入っています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p>〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会の都度 現状を報告。 本人に変化がみれば 電話連絡等</p>	
34	<p>〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>家族への外出を提案している。</p>	
35	<p>〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>親戚や知人等の来訪を歓迎しています。家族に 外出や外泊等のお勧め。</p>	
36	<p>〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>レクリエーションや日々の生活の中にも職員が仲を 取り持つ等の配慮を行っています。</p>	
37	<p>〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>退所後の病院や他施設に面会に行っている。</p>	
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
38 (15)	<p>〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>その人らしく生活できるようにそのつと職員間での話し 合いを行っています。</p>	
39	<p>〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>本人・家族・知人等からの情報収集をして います。</p>	
40	<p>〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>各自の日々の体調等を把握し、その時々 に合ったサービスを提供。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	<p>〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	今一番必要と思われている介護計画を立てて可	職員同士で話し合いを行ったり、本人家族の意見を取り入れている
42 (17)	<p>〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	期間ごとの見直しを行うと共に状況の変化があった場合はそのつど計画の立て直しを行っている	
43	<p>〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	毎日の記録を一人一人残しています	毎日のケアの状況をチェックしている
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	<p>〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	出来る限りその方々に必要とする支援が出来るよう職員全員で協力しています。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	<p>〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	デパートに虫かけて催しに行った	
46	<p>〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。</p>	小学生がトイレを借りることはあるがボランティア等の受け入れはまだない	
47	<p>〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。</p>	できていない	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	プライバシーを損ねるような言葉は取っていない 情報の取り扱いには注意を払っている	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の思いを引き出せるように、又、その希望を叶えるように援助している	
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	洗濯、配膳、掃除、食器洗い等は職員の見守りの中、手伝っている	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	入浴の方々に喜んで頂けるサービスに 考え、実行している	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人希望にて家族と一緒に行ける美容院に行っている。その他の方は2ヶ月に1回、ホームに美容師の方から来る	
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	下膳、片付けのお手伝いをしてやっている	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	なるべく個人に合わせたサービスをお勧め 等は職員同士の提供している	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人違いますが、各々自立へ向かうように その人に合ったサービスを行っている	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	今と一緒、同じ時間帯に入浴している		仲の良い者同志が いつかに入浴する=とある。
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	個人の生活習慣と体調に合わせて支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ウリス-ジョン 散歩 外出 等 気晴らしの支援 をしています		
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持は家族 金銭管理は家族に なっています。		
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩、日中ドライブ等 をしています		
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の方に声かけをお願い しています。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ハガキが来ることもある。電話がかかって来る事は あるが、家族の都合でこちらからかける事は ない。		
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時はゆっくり談話できるように環境作り をしています		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊されてもいいとは伝えてはいるけれど、 希望されたことは ない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 ○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	季節毎の行事にお誘いしています		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	拘束は一切していません		
75 (28) ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	前の道路の交通量が多いため、鍵をかけている		
76 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在や様子は常に把握しています		
77 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	その際にどのような危険なものがあるかという点に常に考え取り組んでいます		
78 (29) ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態に応じた取り組みをしています		
79 (30) ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	看護職員を中心に利用者の状態に応じた救急かどわかの見守りめをしている		
80 ○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ミーティングの時話し合っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	おしめは出来てきたが、いっしょに訓練まではしていない	
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族等には説明しています 対応策も話し合っています	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	家族に連絡し受診を行っている	
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬支援は十分行っています 医師には必要は情報はうかがっています	
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	野菜(繊維)の摂取、水分補給 体操や散歩を促しています	
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、口ケア支援しています 清掃 保管も支援しています	
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に力に応じた支援をしています	
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	飲食時の手洗い・トイレ後の手洗い 施行しています	梅雨を迎え夏場に向かっています アルコール手指消毒も今から行っています
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器乾燥機の使用 ハンコ等の消毒 賞味期限の把握	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周辺には、なるべく花や植物を植えている。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節毎に飾りつけを工夫、カーテンで日差し の調節、冷暖房の利用、している。	
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中は、パロパロ、思い思いに過ごせる ように場所の確保をしています。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれの好みを個性的な部屋にしています。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節はこまめに行っています 空気の入れ替えもこまめに行っています。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	廊下に手すりをつけています。転倒防止のため 建物内部の整理整頓を行っています。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	介助に出来ることをして頂くように環境を整えています。	
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	家庭菜園やイモ畑等々下っています ベランダも散歩自由です。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目		
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
99	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 愛の郷
所在地	下関市一の宮東町3丁目380-1
電話番号	083-263-6662
開設年月日	平成16年4月1日

## 【実施ユニットの概要】 (6月25日現在)

ユニットの名称	ほまれ			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名		男性 2名	女性 7名
	要介護1	3	要介護4	0
	要介護2	0	要介護5	0
	要介護3	6	要支援2	0
年齢構成	平均 75.4歳	最低 65歳	最高 84歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	
評価確定日	平成 年 月 日

## 【サービスの特徴】

<ul style="list-style-type: none"> <li>笑顔が多く見られる様、一人ひとりを支援していく。</li> <li>自宅に戻れない利用者のお2の自宅に少しでも近付ける様、配慮してケアをする。</li> <li>家族が気軽に立ち寄れる様、お気軽づくりにつとめる。</li> </ul>
--

# 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		愛の郷のCDをフクリ、唄ったり、体操に使用している。
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようとする日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		夏祭りを行い、子供会へ案内し参加してもらっている。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	○ <b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員に自己評価をしてもらい、自分達の介護をより返るきっかけにしている	
10 (5)	○ <b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2~3ヶ月に1回開催し、事業所の状況報告、地域との交流について話し合っている。	老人会が行っている行事への参加
11 (6)	○ <b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者とは、電話で相談できる事があるか？とよく生向いていき、直接質問等をしている	ショートステイの活用
12	○ <b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	社会福祉協議会と権利擁護を利用契約した利用者がいる。	
13	○ <b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所内で虐待が行はれない様、注意を払っている。高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会は持ちたいと考えている。	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	○ <b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を結ぶ時は、十分時間をとり、疑問点を尋ねやすい環境作りに努めている。	
15	○ <b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の感情の変化に注意し、個別に対応し、意見、不満等と言いやすく配慮する。	
16 (7)	○ <b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時に、生活状況、健康状態を報告している。ホームデイ、写真等を送付し、生活の様子を知らせている。個別には電話で連絡している。	担当職員が、家族に利用者の様子を定期的に知らせる



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>〇情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>	要求があれば、業務日誌を見てもらう	
18 (8)	<p>〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>	面会時や電話をかけた時に意見を聞いている。	
19	<p>〇運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	会議等に管理者も参加し、職員の意見を聞くようにしている。	
20 (9)	<p>〇柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	急な休みや利用者の状況に応じて柔軟な対応が出来るようにしている。夜間必要な時は宿直している。	
21 (10)	<p>〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	ユニット間での職員の交流、利用者の交流をしながら職員を増やし、異動や離職にそなえている。	
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	研修は勤務扱いとし、経験や能力に応じたものに参加している。研修後は勉強会を実施。他グループホームとの交流もしている。	
23	<p>〇職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>	20代～60代の職員を配置している。男性職員が2名と少し少ない気がする。	
24 (12)	<p>〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	山口県定老所・グループホーム連絡会に加入し、研修会に参加したり、他施設の見学等をしている。	非常災害時等相互応援協定を提案し、グループホーム連絡会に呼びかけている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○<u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u>            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	忘年会をはじめ、外食等の機会を作り、相談等としやすい環境を作っている。又、個別に相談しやすい環境も作っている。	希望休はとるべく取れる様にしている。
26	<p>○<u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u>            運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	現場にばるべく居て、勤務状況を把握するようにしている。個別の話し合いも持つ様にしている。他施設の職員との交流会の機会も持つ様にしている。	研修に参加する事で、他施設の職員と話し合いの機会をもち、向上心が持てたらよいと思う。
27	<p>○<u>職員の業務に対する適切な評価</u>            運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>	職員から話しを聞いたり、ばるべく現場に居る事で、理解できるよう努めている。	

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

28	<p>○<u>初期に築く本人との信頼関係</u>            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	利用に関して理解されたい方(認知症の為)が多いが、安心されるまで時間をかけて接している。	
29	<p>○<u>初期に築く家族との信頼関係</u>            相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	どんな事で相談できるようなり、わかりやすく時間を家族に合わせてとっている。	
30	<p>○<u>初期対応の見極めと支援</u>            相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	必要としている支援を見極め、他事業所の説明をしたりしている。介護保険の説明も同時にしている。	
31 (13)	<p>○<u>馴染みながらのサービス利用</u>            本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	利用前に施設の雰囲気体験していただく。	

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

32 (14)	<p>○<u>本人と共に過ごし支えあう関係</u>            職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	日常生活で生来することは自分でしてわらっている。職員と共にいることもある。	施設内のマップかけ、居室のそうじ、白ふき、着替え洗い等
------------	---	---------------------------------------	-----------------------------

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	受診時、家族と同行するようだし、家族がかわりやすくする様に努めている	
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族との外出を提案している。場合によっては、外で落ち合う等、良い関係が築いていける様に支援している	ケアプランの中に家族との外出をあげている
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	親戚、知人等の来訪を歓迎している。家族に外出、外泊をすすめている	
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係に注意を払い、孤立しそうな時は職員が仲に入り、レクをしたり、ゲームをして支援する	
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後、病院や他施設に面会に行っている。写真等が残っていた場合、連絡し、手紙を添えて送付している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	パーソンセントケアを意識し、常に個別に対応が出来る様に努めている	
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人とゆくり会話をする事で情報収集したり、家族等にたずねたりしている	
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	カンパレンスの際、利用者それぞれに合った事が出来るかを話し合い、それを実行してゆっている	トイレふき、テーブルふき、茶わんの後かたづけ、洗たく物のためにトイレのマットかけ等

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日のミーティングや、毎月のカンパレンスで、利用者に向けて課題を話し合っている。本人の意向が反映される様、介護計画を作成している。	
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月に1回、定期的に見直している。変化があれば必要に応じて、現状に即した計画も作成している。	
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきは、業務日誌に残し、申し送りの際、必ず共有する様にしている。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院時の付き添いや、私物の買い物等を行っている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	デパートでの催しに出かけたりしている。住吉神社に行く際、駐車場を確保してもらっている。	
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	小学生が学校帰りにトイレを借りたりする事はあるが、まだまだ開放は出来ていないと思う。	認知症の理解や関わり方についての相談対応をしていきたい。
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	認知症デイサービスを利用したことがある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	言葉使いについては、日常的に職員同志で確認している。記録の保管方法や秘密保持にも十分は注意を払っている	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の希望を聞き、やりたい事としてもらっている。	
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	杖歩行の利用者にも見守りをしよからテーブルをふいてもらったりして、生活リハに役立てている。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の意思を本人に確認するだけでなく、何を望んでいるかを見抜き、それに添うように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族の協力を得て、なじみの美容院に行ってもらっている。職員と外出し、理容院に行ったりしている。	ヘルパー資格を持った美容師に来てもらっている
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝夕食はホームで作っている。昼食は外部業者が作ったものを盛り付けしている。おやつ(ホットケーキ)は一緒に作ることもある。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しむよう支援している。	医師と相談し、週1回コーラを飲んでもらっている。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を利用し、その人のパターンを把握し、定期的に声掛けをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	拒否された利用者には、散歩に行ったり、時間をあけたりして再度声掛けする。		
65	〇安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	体調に合わせて休息してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩、外出等で気晴らしをしている。		
67	〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物(100円市場等)に行った際、お金を払ってもらう		
68 (26)	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩、ドライブ等話し合いつながら出かけている		
69	〇普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	利用者の希望が強い場所に出かけられるように話し合っている。		
70	〇電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族からの電話を取り次ぐ事はあがるが、こちらからかける事は少ない。(家族よりの依頼により、かけてよい様にしている)		
71	〇家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時は、自宅で過ごしてもらっている。 おやつ時は、いっしょに食べてもらっている。		
72	〇家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊された事は少ないが、出来る事を伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 ○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	季節の行事に案内を出している。		早(ま)里、敬老会、クリスマス会等。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	常に話し合い、気付かぬうちにスピーチロックを してはいいかどうか気を付けている。		
75 (28) ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	おぼやく出て行く利用者がある為、鍵をかけて いる(前の道路の交通量が多い)		
76 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の所在の確認は、常に把握する様 に配慮している。		
77 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	必要な物のどうかは話し合い、一人ひとりの 状態に応じて対応している		
78 (29) ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	歩行の不安定な利用者の移動には細心の 注意を怠らぬと、その時、すぐに対応出来る様 にしている。		
79 (30) ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	看護職員を中心に、利用者の状態に応じ 救急かどうかの見きわめをしている		
80 ○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ミーティングの時 話し合っている		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84 (32)	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87 (34)	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

運営推進会議で救急対応の訓練をする等  
協力をお願しているか? 地域の方と一っしょの  
訓練をするまでには至っていない

家族にはきちんと説明している。

朝のバイタルチェックをかかさず、体調変化の早期  
発見に努めている。

薬ファイルを利用し、二重チェックをしている。  
利用者に変化等があれば、すみやかに主治医  
にフィードバックしている。

水分量のチェック、体操、散歩等をはかっている。  
便秘の時は医師に相談し、看護職員が  
対応している。

毎食後歯みがきをしている  
義歯の利用者はポリテント等を使用し、清潔に  
配慮している。

個別に量を調整している

食事前、トイレ後の手洗いを施行、場合により  
除菌ウェットティッシュ等を使用している

食器乾燥機を使用。まな板、フキン等は  
ハイターで消毒している  
賞味期限はこまめにチェックしている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。		
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの	②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと	②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが	②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが	②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが	②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない